

加賀藩下屋敷の歴史

○加賀藩下屋敷の拝領について

加賀藩下屋敷は、延宝7年(1679)に五代藩主である前田綱紀が、板橋宿平尾の地に6万坪の土地を拝領したことに始まります。その後、敷地の拡張がすみ、最終的には約21万8千坪の広大な屋敷地となりました。当時、下屋敷は、江戸と周辺に所在する全ての大名屋敷の中でも最大の面積を有していました。

下屋敷は、国許の金沢城に隣接する兼六園と同じく、池泉回遊式の大庭園として設計・整備され、藩主と家族が非日常の生活を過ごす別荘として機能していました。具体的には、狩猟や散策、保養がなされ、庭ではタンチョウヅルや唐鳥が飼育され、希少な植物の栽培も行われていました。また、藩主の参勤交代の際は、旅装から登城用の装束への着替えや江戸屋敷に住む家族との対面の場ともなっていました。

○下屋敷の軍事利用について

幕末の嘉永6年(1853)、浦賀沖にアメリカのペリー艦隊が来航してから事情が一変します。加賀藩としては江戸防備のため大砲を作る必要がありました。加賀藩では既に西洋式の大砲を作る技術を金沢で確立していましたが、川口での体制をどうするかが懸案でした。

下屋敷は江戸郊外にあって、敷地が広いこと、銅鉄の材料や川口の職人を動員できること、動力として使える水車があることなどの利点から、藩は下屋敷を大砲製造所にすることを決定しました。

その流れは、明治期以降も引き継がれ、下屋敷跡地に陸軍の火薬製造所が発足し、昭和15年(1940)には、東京第二陸軍造兵廠に改編されました。加賀西公園内の圧磨機圧輪記念碑は火薬製造に使われていた実物をモニュメントとしたものです。



火薬製造所にあった弾道管及び射塚

○加賀前田家下屋敷跡と宇喜多秀家供養塔

宇喜多秀家は、豊臣秀吉の五大老の一人として知られています。慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いでは石田三成に加勢したため、慶長11年に八丈島へ流罪となりました。

加賀藩前田家は、藩祖・前田利家の娘の豪が秀家の室(妻)だった関係で、八丈島の秀家の子孫に、江戸時代を通じて米70石や衣類・金銭などを送って援助しています。

明治2年(1869)2月、新政府は宇喜多家(浮田家)の流罪を免じ、「旧来由緒」を理由に金沢藩に宇喜多家への扶助を命じました。翌年には宇喜多秀家直系の子孫75人が八丈島を離れ、金沢藩に身を寄せています。

宇喜多家は、旧加賀藩江戸下屋敷平尾邸のうち2万坪の提供を受けて、この地に帰農することになりました。彼らは平尾邸内の御殿跡に居を構え、現在の板橋四丁目1番地に宇喜多秀家の 廟所(びょうじょ)を造りました。なお、一族の中には生活環境の変化になじみず八丈島に帰島した者もいました。

廟所に築かれた宇喜多秀家供養塔は、幾度かの移転を経て、現在は板橋四丁目の東光寺境内に設置され、宇喜多同族会によって祀られています。この塔は前田家・宇喜多家の歴史と、両家の板橋区との関わりを物語る貴重な資料で、平成10年度に区の登録有形文化財となりました。

東光寺の宇喜多秀家供養塔

START

① いたばし観光センター



所在地 板橋3-14-15 電話 03-3963-5078
 開館時間 9時~17時
 休館日 火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

区内の名所、旧跡など板橋の魅力をもっとPRする観光パンフレットの配布や観光グッズの販売をしています。また、いたばし観光ボランティア「もてなしたい」が区内の自然、歴史、文化などを紹介しながら観光コースをご案内いたします。ぜひ一度お越しください。

② 板橋三丁目縁宿広場

③ 観明寺

室町時代の創建と伝わる真言宗寺院です。本尊の聖観音立像は12世紀ごろの作と考えられています。境内には、寛文元年(1661)の庚申塔や、加賀藩下屋敷から遷されたといわれる稻荷社と赤門があります。

所在地 板橋3-25-1



④ 東光寺



所在地 板橋4-13-8

室町時代の創建と伝わる浄土宗寺院です。境内には、青面金剛の見事な彫刻がほどこされた寛文2年(1662)の庚申塔や、江戸時代に平尾一里塚上にあったと伝わる石造の地藏菩薩座像、明治時代に板橋へ移り住んだ宇喜多家の子孫が建てた戦国武将宇喜多秀家の供養塔があります。

⑤ 大御門跡

⑥ 東橋

⑦ 金沢橋

⑧ 加賀公園

江戸時代、このあたり一帯には加賀藩前田家の下屋敷があり、その広さは約21万8千坪にもなりました。この公園は屋敷内庭園にあった築山の跡です。

明治から終戦までは、この地に火薬を製造する板橋火薬製造所(東京第二陸軍造兵廠板橋製造所)がありました。

所在地 加賀1-8



GOAL

⑬ 板橋



所在地 本町28

旧中山道の仲宿付近、石神井川にかかる橋です。板橋の地名の由来になったとも言われています。『延慶本平家物語』などの文献にも「板橋」の名は見られ、鎌倉時代にはすでに地名になっていたと考えられています。

⑭ 文殊院

江戸時代前期、延命地蔵を祀るお堂を寺院としたと伝えられている真言宗寺院です。本尊の文殊菩薩坐像は寛文年間(1661~1673)の作と伝えられています。板橋宿本陣を勤めた飯田家の菩提寺で、墓地には、加賀藩前田家の祐仙院に仕えた飯田静の墓などがあります。



所在地 仲宿28-5

⑬ 圧磨機圧輪跡

⑫ 金沢小学校

⑪ 圧磨機圧輪記念碑



所在地 加賀1-10
加賀西公園内

明治9年(1876)に完成した陸軍砲兵本廠板橋火薬製造所で用いられました。幕命によりオランダに留学していた沢太郎左衛門が帰国の際にベルギーで買い求め持ち帰ったものです。この記念碑は実際に石神井川の水力を利用して火薬製造に使われていた実物を記念碑として、大正11年(1922)に陸軍省が設置したものです。

⑩ 琴柱燈籠

⑨ 石神井川の桜並木

花見の頃になると川の upstream から下流まで1,000本を超えるサクラが咲き誇る区を代表する桜の名所になっています。川沿いに歩いていくと、江戸時代から桜の名所と知られる北区の飛鳥山まで桜並木が続いています。春の一日、桜を楽しむには最適です。



板橋区 金沢ゆかりの地 マップ

金沢市友好交流都市協定締結10周年記念
 かつての加賀藩下屋敷を巡るまちあるきマップ

